

## 九州国際大学研究者情報

### 基本情報

所属	法学部 法律学科	氏名	花松 泰倫 HANAMATSU Yasunori
職名	教授	E-mail	hanamatsu@law.kiu.ac.jp
		ホームページ	

#### ■ 学歴・取得学位

2000(平成12)年3月	北海道大学法学部法学課程卒業 学士(法学)
2004(平成16)年3月	北海道大学大学院法学研究科修士課程修了 修士(法学)
2008(平成20)年8月	北海道大学大学院法学研究科博士後期課程 単位取得満期退学

#### ■ 主な職歴

2008(平成20)年9月	総合地球環境学研究所 研究部 プロジェクト 研究員 (2010年3月まで)
2010(平成22)年6月	ジョージワシントン大学欧州ロシアユーラシア 研究所客員研究員 (2011年5月まで)
2011(平成23)年6月	北海道大学 スラブ研究センター 学術研究員 (2014年1月まで)
2014(平成26)年2月	九州大学 持続可能な社会のための決断科学センタ ー講師 (2018年3月まで)
2014(平成26)年4月	北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター 共同研究員 (現在に至る)
2018(平成30)年4月	九州国際大学 法学部法律学科 特任准教授
2020(令和2)年4月	九州国際大学 法学部法律学科 准教授
2022(令和4)年4月	九州国際大学 法学部法律学科 教授 (現在に至る)
2022(令和4)年10月	福岡水巻看護助産学校 非常勤講師 (現在に至る)
2023(令和5)年1月	下関看護リハビリテーション学校 非常勤講師 (現在に至る)

### 教育活動

#### ■ 主な担当授業科目

○ 学部：政治学1・2、専門演習A、法律学基礎セミナー1・2、キャリアチ

- ユートリアル2・3・4、リスクマネジメント各論2、リスクマネジメント実習1、リスクマネジメント実習2、リスクマネジメント入門
- 大学院：政治学特殊研究 I

■ 教育上の特記事項

- 教科書・教材：平井一臣・土肥勲嗣（共編著）『つながる政治学：12の問いから考える【改訂版】』法律文化社、2022年（分担執筆）
- 教科書・教材：山崎孝史編『「政治」を地理学する—政治地理学の方法論』ナカニシヤ出版、2022年（分担執筆）
- 教育活動：特になし
- 免許・資格：特になし

**研 究 活 動**

■ 研究分野

研究分野	国境学（ボーダースタディーズ）、国際関係論、国際法、科学技術社会論
主な研究テーマ	ボーダーツーリズムと境界地域社会の変容過程 科学と社会の協働（トランス・ディシプリナリー研究）
キーワード	国境、ボーダー、境域社会、ボーダーツーリズム、対馬・釜山、アムールオホーツク、北極圏、Future Earth

■ 主な著書・論文等

- 著書
- 山田良介編著『ダークツーリズムを超えて—九州と北海道から考える』（仮題）北海道大学出版会、2024年刊行予定（第1章「北海道の深淵を旅する」執筆を担当）
  - 山崎孝史編『「政治」を地理学する—政治地理学の方法論』ナカニシヤ出版、2022年（第14章「対馬：国境離島の動態」205-216頁執筆を担当）
  - 平井一臣・土肥勲嗣編（共著）『つながる政治学：12の問いから考える【改訂版】』法律文化社、2022年（第8章「国境・ボーダーとは何か」139-159頁執筆を担当）
  - 平井一臣・土肥勲嗣編（共著）『つながる政治学：12の問いから考える』法律文化社、2019年（第8章『「国境の罫・領域の罫」とは何か～ボーダーフルな世界を上手に生きる～」135-155頁を担当）
  - 岩下明裕編（共著）『ボーダーツーリズム—観光で地域をつくる』北海道大学出版会、2017年（第1章「福岡・対馬と釜山をつなぐ」35-60頁、第4章「国境を想像する旅（小笠原断章）」143-148頁を担当）
  - 小澤実・中丸禎子・高橋美野梨編（共著）『アイスランド・グリーンランド・北極を知るための65章』明石書店、2016年（第27章『「氷解」のフロンティアをめぐる争奪と協調—北極問題の法的諸相—』188-192頁を担当）
  - 岩下明裕・花松泰倫（共編著）『国境の島・対馬の観光を創る』北海道大学

出版会、2014年（第1章「国境のまちのいま」10-22頁、第4章「国境のまち・上対馬の素顔」40-47頁、第5章「提言—ユーラシアのゲートウェイ」48-57頁を担当）

#### 論文

- “The Dynamism of a Border Island and its Sustainability: Tsushima Island in Japan”, T. Yamazaki ed., *Islands in Relations: Conflicts, Sustainability, and Peace (tentative)*, Springer, 2024 (forthcoming) (査読有り)
- “How Can We Develop a Co-design, Co-production, and Co-delivery Process Toward a Sustainable Local Society? Comparative Study on Transdisciplinary Research Projects” (共著・第一著者) T. Yahara ed., *Decision Science for Future Earth*, Springer, 2021, pp.67-91 (査読有り)
- “Sustainable Community Co-development Through Collaboration of Science and Society: Comparison of Success and Failure Cases on Tsushima Island” (共著・第一著者) T. Yahara ed., *Decision Science for Future Earth*, Springer, 2021, pp.133-166 (査読有り)
- 「多層的ボーダーに生きる苦悩と光—中露アムール国境への旅を通して—」(単著) 地田徹朗・柳澤雅之(編)『ユーラシア国境域の自然環境と境域社会の生活戦略』京都大学東南アジア地域研究研究所 CIRAS Discussion Paper No.103、2021年、43-54頁(査読なし)
- 「対馬・釜山のボーダーツーリズムの展開—境界地域の資源としての国境—」(単著)『地理』第734号、古今書院、2016年、44-51頁(査読なし)
- 「国境離島・対馬における『国境観光』の取り組みと課題」(単著)『九州経済調査月報』第69号、九州経済調査協会、2015年、48-53頁(査読なし)
- “National Boundaries and the Fragmentation of Governance Systems: Amur-Okhotsk Ecosystem from the Legal and Political Perspective” (単著) M. Taniguchi, T. Shiraiwa (eds.), *The Dilemma of Boundaries: Toward a New Concept of Catchment*, Springer, 2012, pp.123-143 (査読あり)

#### 学会発表

- 「ボーダースタディーズから見た対馬の韓国人観光」2019年度経済地理学会西南支部・関西支部合同特別例会、2019年12月、対馬市(単独・日本語)
- 「対馬・釜山ボーダーツーリズムと境界地域社会の変容」第29回東アジア学会「東アジアのボーダーを考える」、2019年5月、九州国際大学(単独・日本語)
- “Co-producing sustainable local community in collaboration between science and society: the case of Tsushima island”, World Social Science Forum 2018, Sep 2018, Fukuoka. (単独・英語)
- 「持続可能な地域コミュニティ創出における『科学と社会との協働』:長崎県対馬市の事例を中心に」科学技術社会論学会第16回年次研究大会、2017

年 11 月、九州大学（単独・日本語）

- 「砦かゲートウェイか？—日本の島嶼から考える（2）：対馬・釜山ボーダーツーリズムの展開と境域社会の変容過程」日本国際文化学会第 16 回全国大会、2017 年 7 月、宮崎公立大学（単独・日本語）
- “Border tourism and its impact on a changing borderland society: Cross-border tourism between Tsushima, Japan and Busan, Korea”, 59th Annual Conference of the Association for Borderlands Studies, Apr 2017, San Francisco, US.（単独・英語）
- 「対馬・釜山ボーダーツーリズムの展開と境域社会の変容」アジア政経学会 2016 年度秋季大会、2016 年 11 月、北九州国際会議場（単独・日本語）
- 「紛争を乗り越えるツーリズム—日韓関係における対馬の役割」日本国際文化学会第 15 回全国大会、2016 年 7 月、早稲田大学（単独・日本語）
- “Developing Border Tourism and Changing Situation of Border Regions in Japan: The Case of Tsushima-Busan Cross-Border Tour”, 15th Annual Conference of the Border Regions in Transition, May 2016, Hamburg, Germany.（単独・英語）
- “Border Tourism and Changing Borderland Society in Japan: The Case of Tsushima-Busan Cross-Border Tour”, 58th Annual Conference of the Association for Borderlands Studies, Apr 2016, Reno, US.（単独・英語）
- “Developing Border Tourism in Japan: The Case of Tsushima-Busan Cross-border Tour”, 57th Annual Conference of the Association for Borderlands Studies, Apr 2015, Portland, US.（単独・英語）
- “Developing Cross-border Environmental Cooperation in Northeast Asia and Russian Far East: The Case of Amur-Okhotsk Ecosystem”, 57th Annual Conference of the Association for Borderlands Studies, Apr 2015, Portland, US.（単独・英語）

その他

- 「ボーダーツーリズム」現代地政学事典編集委員会編『現代地政学事典』、丸善出版、2020 年、558-559 頁
- 「環境と人権」環境経済・政策学事典編集委員会編『環境経済・政策学事典』、丸善出版、2018 年、530-531 頁

■ 大学就任以前の主な業務上の実績

	特になし
--	------

■ 主な所属学会

Association for Borderlands Studies (ABS)、国際法学会、日本政治学会、日本国際文化学会、科学技術社会論学会、東アジア学会
--

■ 受賞等

2015(平成 27)年 3 月	公益財団法人 九州経済調査協会 平成 27 年度地域研究助成事業優秀賞
2017(平成 29)年 12 月	対馬市『対馬学フォーラム 2017』最優秀ポスター賞 「上対馬の交流人口を増やそう！—日本人観光客 381 名のアンケート調査の結果—」 (長崎県立上対馬高等学校 2 年生 6 名との共著)

■ 研究助成金による研究

○ 科学研究費補助金 挑戦的研究 (開拓)「高度科学技術社会に必要なトランスディシプリナリー研究の方法論と評価指標の構築」(研究分担者) 課題番号 21K18113 令和 3~7 年度
○ 科学研究費補助金 挑戦的研究 (萌芽)「冷戦終焉とユーラシアの境界・環境・社会：グローバルな比較と理論化に向けた学際研究」(研究代表者) 課題番号 17K18531 平成 29~令和 4 年度
○ 科学研究費補助金 国際共同研究強化(B)「東シナ海島嶼をめぐるトランスボーダー地政学の構築」(研究分担者) 課題番号 18KK0029 平成 30~令和 5 年度
○ 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」(令和 3~4 年度) 研究課題「ユーラシアの地政治への接近—サハリン・北海道・韓国(朝鮮半島)をつなぐダークツーリズムの構築のための基礎的調査」(研究分担者)
○ 科学研究費補助金 基盤研究(B)「東アジアにおける国境観光の比較研究：境域社会の変容過程と『隣国関係』への影響評価」(研究代表者) 課題番号 17H02491 平成 29~令和 3 年度
○ 令和 3 年度京都大学 東南アジア地域研究研究所 共同利用・共同研究拠点「地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点」研究課題『日本の国境地域と国内境域：物理的・自然的・社会的境界の「ずれ」とその境域社会への影響』(共同研究者)
○ 令和 2 年度 京都大学東南アジア地域研究研究所 共同利用・共同研究拠点「地域情報資源の共有化と相関型地域研究の推進拠点」研究課題『ユーラシア国境域の自然環境と境域社会の生活戦略』(共同研究者)
○ 平成 30 年度琉球大学国際沖縄研究所共同研究「アジア太平洋島嶼国・地域のボーダーに関する比較研究：沖縄の離島と南洋諸島を中心に」(共同研究者)
○ 平成 28 年度北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター共同研究「スラブ・ユーラシア地域(旧ソ連・東欧)を中心とした総合的研究」研究課題『スラブ・ユーラシア地域を中心とする境界・国境研究』(研究代表者)
○ 平成 27 年度公益財団法人九州経済調査協会地域研究助成事業「長崎県対馬市における韓国人観光客受け入れに基づいた地域づくりと国境観光の可能性」(研究代表者)

- 科学研究費補助金 若手研究(B)「アムールオホーツク生態系の陸海統合管理とラムサール条約の適用可能性」(研究代表者)  
課題番号 24730098 平成 24～26 年度
- 科学研究費補助金 若手研究(B)「北東アジア巨大生態系の陸海統合管理とラムサール条約の適用可能性」(研究代表者)  
課題番号 22730108 平成 22～23 年度

## 社会における活動等

### 委員

- 日本国際文化学会理事  
(平成 31 年 4 月～令和 4 年 3 月まで)
- 境界地域研究ネットワーク JAPAN (JIBSN) 事業部会委員  
(平成 26 年 4 月～現在に至る)
- 特定非営利活動法人国境地域研究センター (JCBS) 理事  
(平成 27 年 6 月～現在に至る)
- ボーダーツーリズム推進協議会 (JBTA) 理事  
(平成 29 年 7 月～現在に至る)
- 長崎県立上対馬高等学校総合学習授業担当講師  
(平成 28 年 4 月～2017 年 12 月)
- 福岡県八女市第二次茶のくに観光アクションプラン策定業務受託予定者  
選考委員会委員 (平成 30 年)
- 黒崎アートプロジェクト実行委員会 (令和 3 年～4 年)
- 対馬グローバル大学講師 (令和 3 年)
- 北九州市未来創造ネットワーク管理運営業務委託事業者選定委員 (令和 5 年)
- 北九州市シン・ジダイ創造事業運営等業務委託プロポーザル方式審査委員会審査委員 (令和 6 年)

### 新聞報道

- 「国境の島・対馬の未来 砦ではなくゲートウエーとして」西日本新聞平成 26 年 6 月 27 日朝刊寄稿
- 「対馬に来たれ！『国境観光』作戦—人口減・過疎化に歯止め」朝日新聞平成 26 年 10 月 28 日朝刊取材協力
- 「国境ツーリズム 有効の船出 観光資源見直し 研究者ら企画」朝日新聞平成 27 年 3 月 4 日朝刊取材協力
- 「いま、対馬で⑥ 国境観光：離島のハンディ逆手に」西日本新聞平成 27 年 3 月 5 日朝刊取材協力
- 「国境観光 対馬・釜山の旅：最前線で隣国関係を考える」西日本新聞平成 27 年 4 月 3 日朝刊取材協力
- 「新観光 境界地域に光」北海道新聞平成 27 年 5 月 5 日朝刊取材協力
- 「国境観光に注目 豊かな歴史遺産生かす」新潟日報平成 27 年 5 月 16 日

#### 朝刊取材協力

- 「観光で国境振興」西日本新聞平成 27 年 5 月 31 日朝刊取材協力
- 「国境をたどって③ 朝鮮通信使、二つの思い」朝日新聞平成 30 年 3 月 22 日夕刊取材協力
- 「ボーダーツーリズム 対馬 (3) 適度な『違い』楽しむ韓国人」毎日新聞平成 30 年 4 月 22 日夕刊寄稿
- 「ボーダーツーリズム 釜山 (下) 異国の近さ実感する船旅」毎日新聞平成 30 年 5 月 13 日夕刊寄稿
- 「ボーダーツーリズム 板門店 (上) 間近に見る軍事境界線」毎日新聞平成 30 年 5 月 20 日夕刊寄稿
- 「独自の交流で存在感を～相克の日韓 「対立」と「協調」の現場から②国境の島～」山陰中央新報 令和 5 年 2 月 27 日、山形新聞 令和 5 年 2 月 28 日、長崎新聞 令和 5 年 3 月 6 日等 その他、全国各紙にコメント掲載
- 「最果てのいざない 各自治体が誘致合戦」静岡新聞 令和 6 年 1 月 6 日、東京新聞 令和 6 年 2 月 10 日等 その他、全国各紙にコメント掲載

#### 大学運営活動等

- |               |                         |
|---------------|-------------------------|
| ○ 教務委員        | 平成 30 年 4 月～令和 2 年 3 月  |
| ○ 国際センター委員    | 平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月 |
| ○ 法学部 PASS 委員 | 平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月  |
| ○ 法学部副学部長     | 令和 2 年 4 月～令和 6 年 4 月   |
| ○ 自己評価検討委員    | 令和 2 年 4 月～令和 4 年 5 月   |
| ○ カリキュラム運営委員  | 令和 2 年 4 月～令和 6 年 4 月   |
| ○ 基礎教育センター委員  | 令和 2 年 4 月～令和 6 年 4 月   |
| ○ 教職課程委員      | 令和 5 年 4 月～令和 6 年 4 月   |
| ○ 法学部教務委員     | 令和 2 年 4 月～現在に至る        |
| ○ FD 委員       | 令和 2 年 4 月～現在に至る        |
| ○ FD 推進委員     | 令和 3 年 4 月～現在に至る        |
| ○ 法学部長        | 令和 6 年 4 月～現在に至る        |
| ○ 自己点検・評価運営委員 | 令和 6 年 4 月～現在に至る        |